

ニューコンステレーションシリーズ これからを生きるためのAtoZ



「これから 生きるためのAtoZ」を みんなでつくる

文・塩見直紀

半農半Xというコンセプトを約25年前から提唱してきて、それぞれの人が必ず有する魅力、Xの可視化、言語化をワークショップでおこなうようになりました。

12年ほど前から、AからZまでの26のキーワードで網羅しつつ、本質を探る古典的編集手法「AtoZ」を活用するようになったのです。

主に取り組んできたのは

・ひとのX ※敬称略

(例) 芦田均、桂三扇、新井厚子、
イシワタマリ、塩見直紀…

・市町村や集落単位のX
(例) 綾部、豊岡、上六人部、上宮津、世木4集落、水源の里8集落…

・テーマのX
(例) 福知山マラソン、農家民宿、
コミュニティナース、作業療法士…
の3分野です。多くの作品はAtoZ専用ホームページで公開しています。

あるとき、こんなイメージが私のなかで湧きました。いま、世界はトランプゲームの「神経衰弱」のようにカードが裏返ったままではないかと。

カードをなんとか表向きにできないか。AtoZによる可視化はその作業だと思っています。

ローカルの世界でAtoZの可能性を試すなかで、先人はなぜ「AtoZ」を

活用してきたのか、「AtoZとは何か」がすこし見えてきました。

でも、あるときこんな考えに会いました。「AtoZとは何か?」も大切だけれど、「AtoZで何ができるか」も大事だという問いです。

これから(コロナ後)の世界にAtoZに何ができるのか。

2020年4月、思いついて「これからを生きるためのAtoZ」と題し、今後大事だと思うキーワードを1人3案、出し合ったのが本作品です。

1人ひとりがキーワード出しをしておくことは重要です。みんなが出し合ったキーワード群のなかの1つとあなたが考えるキーワードを掛け算

すればおもしろいことが起こるかもしれない。

住んでいる地域ごとにキーワードは特徴があるかもしれません。地域編を編むのもいいでしょう。

何より、世界のみんなでキーワードを出し合ったり、集められたら、どんなにすてきでしょう。

アルファベットは人類最高の発明といわれます。世界が分断の危機にあるなか、あえて、このアルファベットをつかって新しい目印をつくりだせないか。

いまそんなことを考えているのです。



伊藤和徳

愛知県春日井市生まれ。30歳で脱サラし、1年の農業研修を受け、岐阜県加茂郡白川町の里山で有機農業を2010年から始めました。無肥料自然栽培でお米、大豆、露地野菜を少量多品目で大切に育てながら、家族4人で地に足をつけた暮らしを実践すべく奮闘中です。



小宮勇介

2001～7年、貸農園「無の家」管理人。7～9年上下水道維持管理会社。9年、岡山市美作市で引っ越しと農業手伝い。walk9/韓国巡礼参加。10年～現在、食生活を考える会の配送。13年～現在、兵庫県三田(さんだ)市藍本日出板にある六風堂管理。クウィ、ユズ、等あり、果樹を増やす予定。



佐藤壮広
コールさとう

1967年生まれ、青森県育ち。表現者。大学教員。絵本から社会運動のピラまであらゆる言葉を囲んで、集まった皆で新しく詞をつくり表現するワークショップ「歌う人間学」の主宰。好きな音楽はJazz、Blues、明治期の「演歌」。「コールさとう」の名でもイロイロと活動中。



塩見直紀

1965年、京都府綾部市生まれ。21世紀の生き方、暮らし方として、半農半Xコンセプトを25年前から提唱。著書に『半農半Xという生き方【決定版】』など。古典的編集手法「AtoZ」を使い、「人と地域のXの見える化」を研究中。福知山公立大学地域経営学部特任准教授、総務省地域力創造アドバイザー。



高田晶子

千葉県君津市移住5年目、夫と半農+半+会社員+自然体験リーダー+アートワークセラピストしています。昨今の災害の体験を通して、たのしくサバイバルする道を探りながら、志が同じ方達とのご縁の中で、自然のつながり・自然の流れの一員として生きていく想いが深まっています。



田中文夫

1952年香川県生まれ。大阪府箕面市在住。田中文脈研究所代表。半農半コンテキスター。コンテキスターとはコンテキスト(文脈)をつないで情報発信する者のこと。半農半X研究所・主任研究員。著書『コンテキスター見聞記～半農半Xから国つ神へ』『出雲國まこも風土記』。



田中利典

1955年、綾部市生まれ。綾部市内在住の修験僧。奈良県吉野／修験道の総本山金峯山寺で宗務総長を務め、吉野大峯のユネスコ世界遺産登録や修験道高場などに尽力する。現在は綾部／林南院住職。金峯山寺長膳。種智院大学客員教授。著書に『体を使って心をおさめる修験道入門』(集英社)など多数。



田谷美代子

美術家、アトリエアンフラマンス主宰。レミニスカート∞をモチーフにした絵の創作のためシュタイナーの人智学を学んでいます。美術史(イメージ)と占星術(ロゴス)を照らし合わせ地上の世界と天上の世界の営みの研究をはじめました。子どもの色のあそび場の開催に向けた準備もしています。



羽田野まどか

東京都葛飾区出身。二級建築士。丹後歴22年。2012年宮津町家再生ネットワーク設立。主な業務:建築の企画・設計、起業相談、カフェ・シェアスペースの運営等。弊社の職域を“デザインの町医者”と位置付け、相談者のありがたい姿を形にする仕事をしています。



原田 明

2003年7月29日にネット上で塩見直紀さんに遭遇。綾部里山交流大学1期生。2007年に広告会社を早期退職。農的生活を夢見るが、妻の反対であえなく断念。それなら半Xを頑張ろうということで、地元でソーシャルな活動に動んでいます。68歳。



藤本宏秋

1969年(酉年)10月10日、京都府舞鶴市生まれ。子どもの頃から、心とは、自分とは、人間とは、何なのか疑問を持ちながら、わからないまま今に至る。今世での自分のお役目だけは出来るように、日常そのものが禊と思って暮らしています。後悔のないよう、爽やかに、あの世へ帰れますように。



フランク
正二郎

2002年東京で英国婦人と出会い、結婚を機に2004年渡英。以後風光明媚な自然環境に魅入られ、ソルタッシュ環境活動グループの役員としてユニークな日本人的視野を反映させつつ、公共りんご果樹園計画や、植林、美化活動を定着させる等の自然環境保護に取組む。



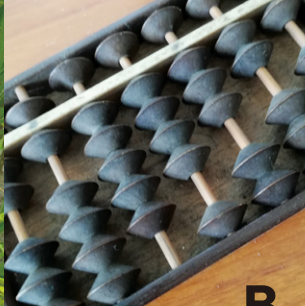
松尾清嗣

亀岡市在住。2010年1月に55歳でリタイア、故郷への恩返しのため、[かめおかまの元気づくりプロジェクト]を立ち上げる。“勝手に”地域住民の、ふれあいや出会いの場づくりを企画・運営して、早10年!手づくり市や素人寄席など、年間30超のイベントを健気に展開中!



三井ハルコ

神戸市出身、川西市在住。自由を愛する水瓶座。1998年度「川西市女性フォーラム実行委員」で実行委員長(公募)経験が市民活動に携わるきっかけ。2005年、中間支援組織「NPO法人市民事務局かわにし」を立ち上げ、2017年から理事長。2010年度から指定管理事業で「川西市 市民活動センター男女共同参画センター」センター長も兼務。



A 間(あいだ)を詰める

田中文脈研究所代表
田中文夫／大阪・箕面

COVID-19は関係性の危機をもたらす感染症です。人々に疑心暗鬼を生じさせ間の感覚を狂わせました。社会的距離が開いたままでも「間を詰めていく」ための想像力を持つことはできます。自分と他者、過去と未来、その間を突き詰めて考えること、クロスさせる必要があります。

Aida

B Basic income

六風堂(ろーふーどー)
小宮勇介／兵庫・三田

ベーシック・インカムを導入すれば、毎月生活できるだけのお金を貰えるので、お金のためにあくせく働かなくて良くなる。その空いた時間にそれぞれの得意なことや趣味に専念できて、社会がより豊かになる気がする。嫌な仕事は誰もやらなくなるかもしれないので、そういうことは各自でやるようにする。

Basic income

C (価値観の合う人たちの)コミュニティづくり

和ごころ農園
伊藤和徳／岐阜・白川

オンライン、オフライン関係なく、つながりがより大切な時代になると思います。ただつながるだけではなく、価値観の合う仲間とつながること。深いご縁が、困難な時でも生きていける財産になります。そんなコミュニティに属したり、場づくりをしていきたいです。

Community

D 普段づかいの哲学

美術家
田谷美代子／埼玉

哲学は人間という存在に課された本質の理解と言えます。「悪妻を持つと哲学者になる」とソクラテスが語ったようにアカデミーのような特別な環境で...というよりは普通の生活の中で起こる困難と向き合うことで至るものと思います。コロナをきっかけに哲学が身近になればと思います。

Daily

E 表現する

表現者・大学教員
佐藤壮広／東京

我々は危機の中でも自分の思いを表現します。そしてその自由があります。工夫を凝らしたマスク、ライブ配信される音楽、看護師の人形を手にした子どもを描いたバンクシーの「Game Changer」などの作品群からも、「表現する人類」の未来が見えます。自由を手放さず生きましょう。

Expressing

F Family time

Satash Environmental Action
フランク正郎／英国・ローンウォール

感染の危険に怯えつつ過ごした隔離期間、同居家族との時間が以前に増して実感した事です。料理やガーデニング、運動等、一緒にやることは興味関心や才能を認識し、絆を一層深める貴重な機会です。かけがえのないファミリータイム、家族への感謝とともに幸福感が溢れ出ます。

Family time



G 自主財源の創造

半農半X研究所
塩見直紀／京都・綾部

先人は山に木を植えて、それを売って財源にしました。二宮金次郎さんは田植え後、捨てられていた苗を拾い、荒れ地を開墾し、稲を実らせ、蓄財していききました。誰かを当てにするのではなく、「自主財源」をどうつくっていくか。とても大事なことで、と思っています。

Gen

H ハーモニー 藤本宏秋／京都・宮津

生きとし生けるもの全てが固有の振動数を持って存在しています。鳥が空を翔ぶように、馬が大地を駆けるように、魚が海を泳ぐように、ひとりひとりのお役目は違います。やりたいと思うことを自由意思で選び、尊重してください。それらが合わさると、素晴らしいハーモニー、交響曲が奏でられます。

Harmony

I 一緒につくる

宮津町家再生ネットワーク代表
羽田野まどか／京都・宮津

新しいチャレンジは、ターゲットとなる人たち、もしくはその次の世代の人たちと、一緒に進めましょう。百聞は一見に如かず。つくるプロセスを共有することで理解が早まり、さらには、より良い形にするための助言や、周囲の人たちとつないでくれる応援者となってくれるでしょう。

Issyo

J 恕（じょ）

修験僧
田中利典／京都・綾部

人類の歴史はいわば感染症との戦いの歴史でした。現代社会においても変わらないことが今回の新型コロナパンデミックで証明されました。その感染終息後の世界は一地域とか一民族の境界を越えて、相互補助の「恕」（互いに慈しみ、認め合い、許し合う）の精神なくしては維持出来ないでしょう。

Jyo

K 1人1研究所社会

半農半X研究所
塩見直紀／京都・綾部

僕が描く世界の未来のビジョン。それが1人1研究所社会です。世界中のみんなが、自分の大好きなテーマ、気になることを生涯、探究していくような世です。幼稚園の子から長老まで、ライフワークに没頭し、研究成果を独占せず、分かち合う時代がくれたらすてきですね。

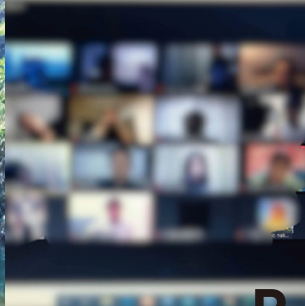
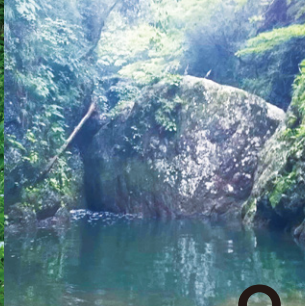
Kenkyu

L ログス∞イメージ

美術家
田谷美代子／埼玉

ログス〈真理〉とイメージ〈像〉が一つになった写本は神々の世界を人間に伝える大切な役割を果たしていました。印刷技術の発展により2つは分かれますがそれは個々の理解の深化への過程とも受け取れます。コロナとして表れた〈像〉の対の〈真理〉を探る旅が始まれば良いですね。

Logos



M 向かう先

住民代理店BOB代表
原田明／兵庫・伊丹

人って面と向かうと対立してしまうよね。横に並んで同じ方向を見ると喧嘩はやりにくいよね。立場や責任から離れて、縁側や屋上で遠くの景色を見ながら、お話ししましょ。現在、過去、未来、ほら、知らないことばかりでしょ？一致するところを見出せば、自ずと一緒歩きだせるんじゃない？

Mukau-saki

N 温故知新

アートワークセラピスト
高田晶子／千葉・君津

本当は不自然なことを感じづらくなる程、人工的な環境で暮らすのが当たり前の、今の私達。ここから改めて、心地よさを感じ創り出す力、いのちを支える自然のめぐりの中で生きる智慧を、先人から学び取り戻す機会に変えていけたらと描きます。

New

O コロナのお陰様

藤本宏秋／京都・宮津

コロナとは、皆既日食の時に見える光の冠。太陽神・天照大神が岩戸に御隠れになり、この世が闇となった時、八百万の神々は集って相談しました。それぞれの得意なことを発揮して、まず笑ひ溢れる明るい世界をつくることで、岩戸が開いたのです。さあ、ひとりひとりが得意なことで輝きましよう。

Okagesama

P Place

住民代理店BOB代表
原田明／兵庫・伊丹

ヒエラルキーがマネジメントする境界線で仕切られたコミュニティではなく、別々の軌跡をたどってきた人生が、ある言葉やイベントを通じて出会い、発生する意味の空間。多様な主体による交わりの舞台。ひとつのプロセスとしてとらえるべきで常に再構成されている。〔「ブレイス・ブランディング」電通abic project編より〕

Place

Q 静かな時間 Quiet life

表現者・大学教員
佐藤壮広／東京

ひとり静かに過ごす時間。でも本がそばにあれば退屈はしません。古代から未来までの出来事、また地元のことから遠い国々の人たちの様子までも、ページをめくれば本はたくさんのことを教えてくれます。本は時空を越えた友だち。静かなひとときをワクワクの時間にも変えてくれます。

Quiet life

R 連帯・連携

NPO法人市民事務局かわにし理事長
三井ハルコ／兵庫・川西

COVID-19との共存・克服に必要なのは、自国第一主義ではなく、世界的な視座での「利己」から「利他」へのパラダイムシフトではないでしょうか。そして、その縦糸に織り込む緯糸は、「市民」のエンパワメントによる「solidarity (連帯)」だとか。

Rentai Renkei



S 自給畑

六風堂(ろーふうどう)
小宮勇介／兵庫・三田

自給畑を各人が持てば、新鮮で安全な食べ物を得ることができる。体を動かして収穫したりするので運動にもなる。もし天災などがあって流通が止まっても近くに食べ物があるので安心できる。家で出た生ごみを捨てることによって作物の肥料になり、ごみの減量につながる。野菜ができなくても野草がある。

Self

T 共生・共苦・共死

修験僧
田中利典／京都・綾部

自然との共生という言葉がありますが、人間目線で見ている限り、自然とのバランスは取り戻せないようです。新型コロナウイルスに限らず、新たな感染症が人類の脅威であることの意味は、常に自然との関係は共生だけではなく、共死、共苦を伴うものだと言っているように思います。

Tomo

U リアルとネットの融合 (ハイブリッド)

かめおかまちの元気づくりプロジェクト
松尾清嗣／京都・亀岡

今まではリアルが当たり前の世の中でしたが、これからは「本当に」会わないといけないのかを考える時代に!? 最近、オンラインでミーティングなどをしていますが、これはこれでアリ! これからはハイブリッドな感覚が必要。でも、やっぱり飲み会はリアルがいいですね(笑)。

U-GO

V ヴァージョン・アップ

田中文脈研究所代表
田中文夫／大阪・箕面

COVID-19は地球規模の肺炎です。人類も生態系も呼吸困難に陥っています。この星のOSを再起動するときは今です。世界をノッペラボーにするのではなく一人一人のヒダヒダを大切にするシステム。「ヴァージョン・アップ」したら世界がぜんたい幸福になっていますように。

Version up

W 吾唯足るを知る

NPO法人市民事務局かわにし理事長
三井ハルコ／兵庫・川西

今回の災禍は、モノ・コト・カネを「more&more(もっともっと)」と「greedy(貪欲)」に求め続けた社会への警鐘のように思えます。そんな時、ふと龍安寺のつくばいの文字が頭に浮かびました。各々の「必要にして充分」を知り、それに「満足」「感謝」できれば…。

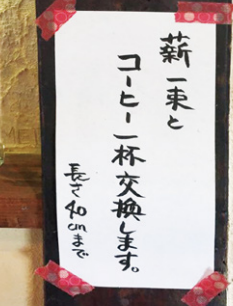
Ware

X つかず離れず! (大切な距離感)

かめおかまちの元気づくりプロジェクト
松尾清嗣／京都・亀岡

新型コロナウイルスは、ソーシャル・ディスタンスなる、新しい「常識」を私たちに押し付けてきました。これからの人間関係においても、「程よい距離感」を考え直すキッカケになるかもしれません。物理的な距離だけでなく、心理的にも精神的にも「つかず離れず!」が大切に!

X



「これからを生きるためのAtoZ」 制作の流れ



2020年4月21日、塩見直紀
がフェイスブックにて「アフ
ターコロナ時代を生きるため
のAtoZ」として1人3つの
キーワードを募集。
例として、塩見直紀のキー
ワードを3つあげた。
H＝1人1研究所社会
J＝自主財源の創造
S＝収斂社会
キーワードは日本語でなくても
かまわない。〆切は2020年
4月27日とした。



集まったキーワードをAからZの
表で一覧化しフィードバック。



セレクト方法等については塩
見直紀がおこなう。各自、自分
があげたキーワードについて、
130字で表現。イメージ写真
とプロフィールの提供を依頼。

これからを 生きるためのAtoZ

編

14名によるキーワード集「これからを生きるためのAtoZ」、いか
がでしたか？白紙のワークシートを添えましたので、ぜひ自分が思
うキーワードもまとめてみてください。何か気づきがあるかもです。
家族や仕事の仲間、地域のみんなでつくるのもいいですね。
みんなが持っているキーワード(想い、道具)を見せ合い、活かし
合い、組み合わせて、すてきなこれからを創っていきましょう。

A

B

C

D

E

F

G

H

I

J

K

L

M

N

O

P

Q

R

S

T

U

V

W

X

Y

Z

Y 優先順位

宮津町家再生ネットワーク代表
羽田野まどか／京都・宮津

丹後で暮らすようになり、やるべきことに優先順位をつける時、「緊急度」、「重要度」の他に「健やかさ」という3つ目の軸を持つてみると、意外に良い成果が出ることが多々あることに気がつきました。そして、自分も健やかでいられる。常に優先順位がなんであるのかを、忘れずにいたいものです。

Yusen

Z 禅、禅的思考

和こう農園
伊藤和徳／岐阜・白川

様々なことを善悪など二元論として判断してしまいがちですが、「どちらでもない」中庸、中道の考えが大切になると思います。枯木裏龍吟(こぼくりのりゅうぎん)という禅語は、全てのもの意味があるということです。そんな視点を見直していきたいです。

Zen

ニューコンステレーションシリーズ

これからを生きるためのAtoZ

発行日 2020年6月28日

写真・文 伊藤和徳(和ごころ農園代表)

小宮勇介(六風堂)

佐藤壮広／コールさとう(表現者、大学教員)

塩見直紀(半農半X研究所代表)

高田晶子(アートワークセラピスト)

田中文夫(田中文脈研究所代表)

田中利典(修験僧)

田谷美代子(美術家、アトリエアンフラマンス主宰)

羽田野まどか(株式会社宮津町家再生ネットワーク代表取締役)

原田 明(住民代理店BOB代表)

藤本宏秋

フランク正二郎(Saltash Environmental Action)

松尾清剛(かめおかまちの元気づくりプロジェクト)

三井ハルコ(NPO法人市民事務局かわにし 理事長)

※50音順

デザイン 神崎奈津子

発行 福知山公立大学 地域経営学部 地域経営学科

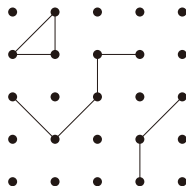
塩見直紀研究室(携帯:090-6249-6539)

shiomina-naoki@fukuchiyama.ac.jp

〒620-0886 京都府福知山市字堀3370

<http://www.fukuchiyama.ac.jp>

ニューコンステレーション
シリーズとは？



コンステレーションとは星座。みんなが新しい時代のキーワードやイメージを出し合うことで新しい星座をつくっていくことをめざす作品シリーズです。表紙は25のアイコンで表現しました。自然、生き物(仲間)、ひと、文明・文化を表現しています。A～Zは26。あなたが1つ何かを加えることで26となります。

AtoZメーカーズ

<https://atozconcept.net/>

バックナンバーを

PDFでご覧いただけます。

